

生活支援体制整備事業協議体会議資料

「医療・介護・認知症部会」

目的（要旨）

医療ニーズは、病気と共存しながら生活の質の維持・向上を図っていく必要性が、介護ニーズは医療ニーズを併せ持つ重度者が増加するなど医療介護の連携の必要性と共に認知症に対する適切なサービス提供の流れの確立、早期の診断対応が求められている。そのような背景の中、当部会では医療や介護等の連携強化を図り、さらに認知症に対する理解を一層深める。



R5.4.14 食事サービスを検討しました

「医療・介護・認知症部会」

構成員

- ・リハビリ等の医療関係者、介護支援専門員、介護事業所等
- ・ぬまたとね医療・介護連携相談室
- ・群馬県認知症疾患医療センター（内田病院）
- ・その他部会において必要と認める者

取り組み

4年度は事例を通じて、地域全体に必要なサービス、社会資源を見つけることを主眼とした。

5年度は、事例検討の他、テーマを絞り、食事、入浴、災害時などに必要なサービスをグループワークで出し合った。

「医療・介護・認知症部会」で出たあったらいいなの一部

食事

配食日が増えると
いい。

シニアが公民館で
弁当づくり

外食ボランティア

地域で会食、一緒に
食べてくれる人

入浴

入浴施設の送迎
サービス

コインシャワー

送迎付き
温泉サロン

可変式浴槽の開発

掃除不要なお風呂

災害編

住民参加の
避難訓練

ペット可の避難所

旅館などの避難所

広域避難の連携

令和5年度 みなかみ町地域ケア会議 医療・介護・認知症部会			
開催日	内容	会場	参加者
R5.4.14	グループワーク あったらいいな～食事編～	みなかみ町保健福祉センター会議室	46人
R5.6.12	困難事例検討会～虐待～	みなかみ町保健福祉センター会議室	46人
R5.8.17	グループワーク あったらいいな～入浴編～	みなかみ町保健福祉センター会議室	31人
R5.10.13	困難事例検討会～複合的な課題のある家族～	みなかみ町保健福祉センター会議室	45人
R5.12.11	グループワーク あったらいいな～災害編～	みなかみ町保健福祉センター会議室	45人
R6.2.15	困難事例検討会～地域の見守り～	みなかみ町保健福祉センター会議室	43人

「自立支援型地域ケア個別会議」

目的（要旨）

多職種の専門的な視点に基づいた助言を通じ、自立に資するケアマネジメントの視点やサービス等の提供に関する知識や技術を習得すること。また、こうした検討を積み重ねることにより地域に不足しているインフォーマルサービスなど行政課題を発見することや、それらの解決に向けた検討を行う。



計画作成者の事例に専門職が助言

「自立支援型地域ケア個別会議」

構成員

- ・ 介護予防・日常生活支援総合事業計画を作成する町内の介護支援専門員（事例提供者）
- ・ 事例の計画に位置づけられているサービス提供事業者
- ・ 理学療法士、作業療法士、薬剤師、管理栄養士、歯科衛生士などの専門職
- ・ 保険者、地域包括支援センター等

「地域ケア個別会議」は従来通り、計画作成者が専門職からの助言で新たな気付き、課題を見つけ今後活かすことが内容の主となっている。

今年度から生活支援コーディネーターの参加もお願いした。

令和5年度 地域ケア個別会議開催状況（みなかみ町保健福祉センター2階会議室）				
開催日	事例提供事業者	サービス事業者	専門職	参加者
R5.5.12	みなかみ社協ケアプランセンター	デイサービスセンター福寿草	理学療法士	事例提供者
	月夜野病院総合介護センター	(株) ソネット	作業療法士	サービス事業者
R5.7.4	みなかみ社協ケアプランセンター	新治ふれあいセンター	薬剤師	専門職
	西嶺の郷居宅介護支援事業所	西嶺の郷デイサービスセンター	(管理) 栄養士	保険者
		(株) リンサン介護福祉サービス	歯科衛生士	地域包括支援センター
R5.9.1	月夜野病院総合介護センター	月夜野の里デイサービスセンター		生活支援コーディネーター
	やまぶきの苑居宅介護支援事業所	月夜野デイサービスセンター		ほか関係者
		みなかみ社協ヘルパーステーション		
		(株) エスアール		
R5.11.1	水上居宅介護支援事業所	水上デイサービスセンター		
	みなかみ社協ケアプランセンター	みなかみ社協ヘルパーステーション		
R6.1.10	西嶺の里居宅介護支援事業所	西嶺の郷デイサービスセンター		
	みなかみ社協ケアプランセンター	みなかみ社協ヘルパーステーション		
R6.3.1	月夜野病院総合介護センター	月夜野の里デイサービスセンター		
	みなかみ社協ケアプランセンター	ヘルパーステーションさくらんぼ		
		ダスキンヘルスレント前橋ステーション		
		みなかみ社協ヘルパーステーション		

課題と展望

- 会議の開催は定期的に行われ、専門職同士の顔の見える関係づくりの場にもなっており、日々の個別支援の一助にも役立っていることと考える。
- 一方で重層的支援体制整備事業でも高齢、障害、児童、困窮といった専門分野との連携もとられていく中で特に「医療・介護・認知部会」のあり方の再確認が必要か。
- それぞれの会議で「必要なサービス」や「地域の理解」等の必要性が見いだされることもある。今後は、それについて「担い手」や「財源」を生み出す会議を「地域生活ネットワーク部会」などに求めたい。